

あか つか 赤塚遺跡



配石遺構



土坑墓



発掘作業



発掘作業



大木式土器



大木式土器



石皿



赤塚遺跡は、JR奥羽本線横堀駅から南へ約1.5kmに位置し、やくないがわ役内川の右岸に形成された自然堤防上に立地しています。

調査の結果、遺跡は縄文時代中期後葉（約4,500～4,000年前）の集落跡であることがわかりました。東北地方南部に一般的な大木式土器だいきしきどきを用い、ふくしきろ複式炉を備えた竪穴建物跡がたくさん見つかりました。これらは住居と考えられ、自然堤防上の平坦面に環状に並んでいます。中央部では遺構があまり見つかりません。

中央部は集会や祭祀を行う広場だったのではないかと考えられます。



複式炉がある竪穴建物跡

◆この発掘調査について◆

所在地 秋田県湯沢市横堀字赤塚 174 ほか
 調査面積 6,720 m² (今年度分は 2,921 m²)
 事業名 国道13号横堀道路事業に係る埋蔵文化財事前調査

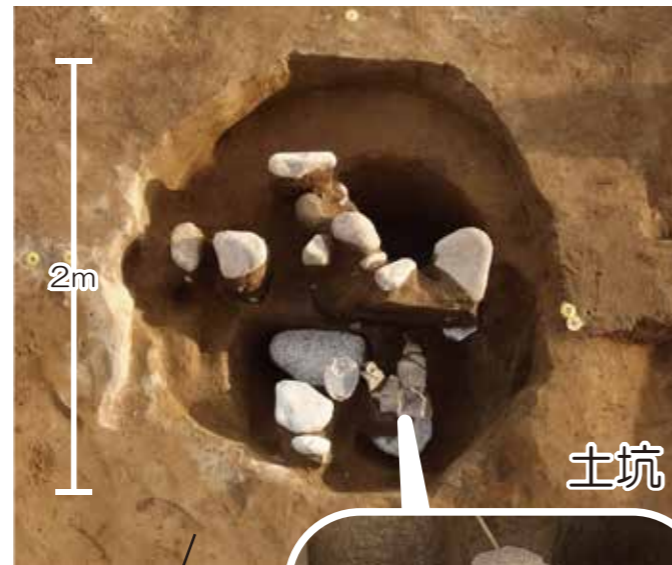
◆発掘調査の成果 (10/11 現在)◆

【遺構】 竪穴建物跡 50 棟 集石土坑 4 基
 土坑 63 基 配石遺構 10 基
 土器埋設遺構 5 基 焼土遺構 32 基

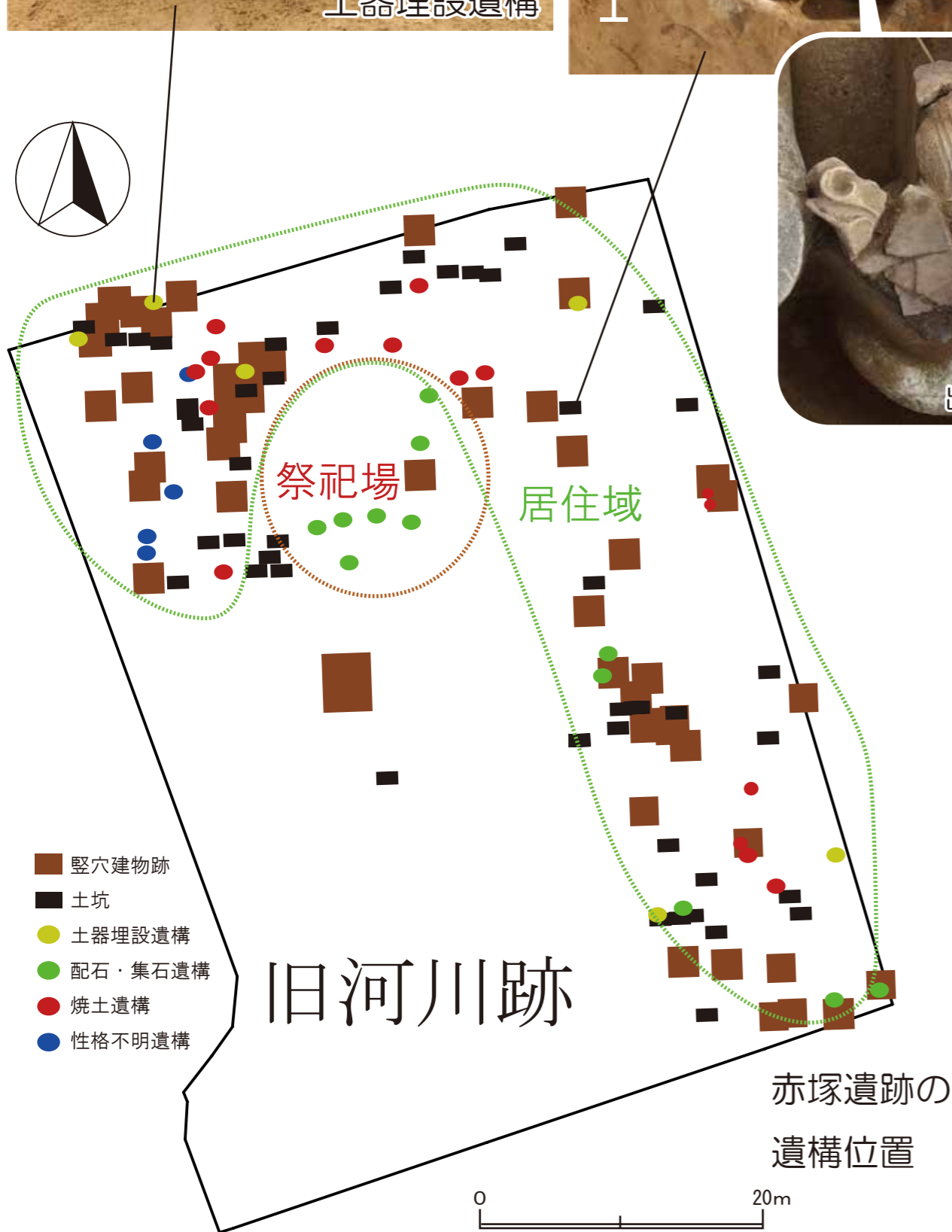
【遺物】 縄文土器（縄文時代中期後葉）、土偶
 石器（石匙・石鏃・石皿・石棒・叩き石・凹み石）
 陶磁器

令和元年10月26日(土) 見学会資料

秋田県埋蔵文化財センター中央調査班 〒010-1621 秋田県秋田市新屋栗田町11-1 電話：018-893-3901



赤塚遺跡では、さまざまな形の
複式炉 (ふくしきろ)
が見つかっています。



複式炉とは

縄文時代の竪穴建物のほとんどは、炉を備えています。炉には、床面を掘りくぼめて火をたいた地床炉や、石で縁取られた石囲炉、床に土器を埋めて使った土器埋設炉などがあります。

赤塚遺跡では、石囲炉と土器埋設炉を組み合わせた複式炉が多く見つかっています。複式炉は、縄文時代中期後葉に北陸地方から東北地方にかけての広い範囲で作られました。